

## 平成 22 年度第 4 四半期 景気動向調査報告

(平成 23 年 1~3 月期実績、平成 23 年 4~6 月期見通し)

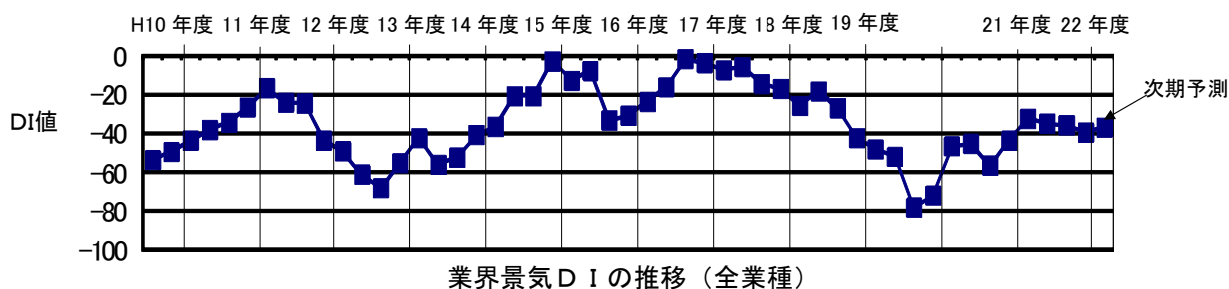
**調査の回答受付(3月7日~31日)が東日本大震災の発生と前後していたため、次期の見通しについて、震災による企業の業況悪化はほとんど織り込まれませんでした。あらかじめご了承ください。**

## 1. 業界景気の現状と見通し

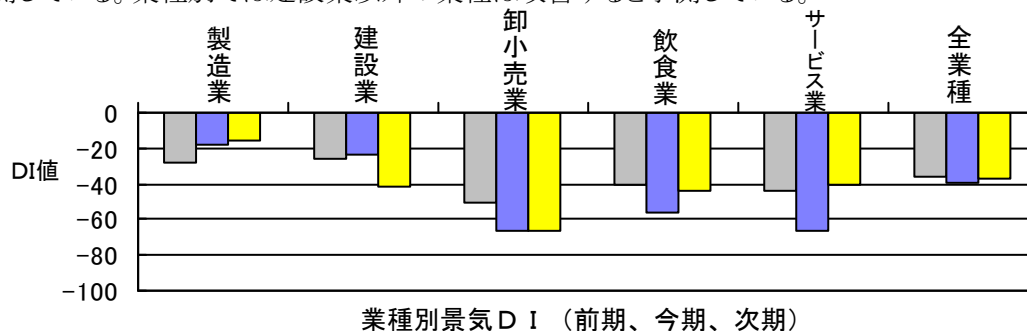
“業界の景況感は▲39.2で前期比3.4ポイント悪化した。次期は▲36.7と2.5ポイント改善すると予測しているが、景況感はなだらかにな下降線をたどっている。”

今期(平成23年1~3月期)の業界の景況感(良くなった%-悪くなった%)を全業種でみると▲39.2である。これは前期▲35.8に比べ3.4ポイント悪化している。

業種別でみると、卸・小売業が▲66.7で16.7ポイント、飲食業が▲56.3で15.4ポイント、サービス業が▲66.7で22.7ポイントそれぞれ悪化している。一方、製造業は▲18.4で9.5ポイント、建設業が▲23.3で2.6ポイントと改善している。業種で景況判断が分かれている。



次期(平成23年度第1四半期)の業界景気の見通しについては全業種▲36.7で、今期より2.5ポイント改善すると予測している。業種別では建設業以外の業種は改善すると予測している。



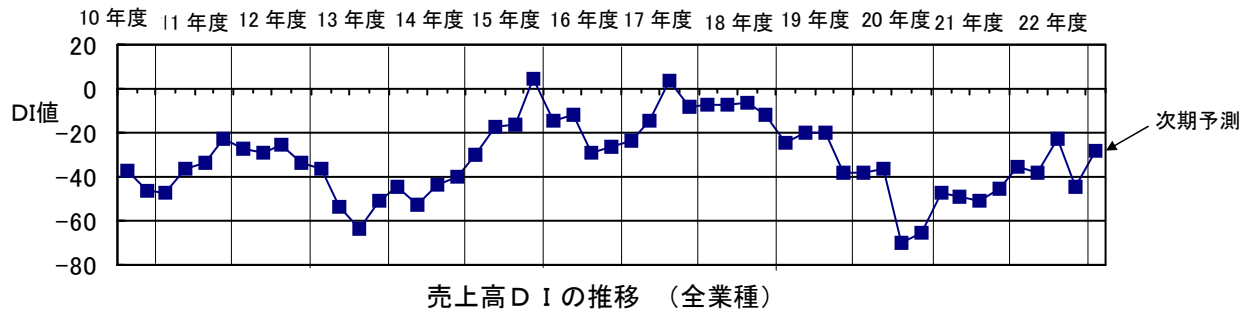
## 2. 自社の業況の現状と見通し

## (1) 売上高

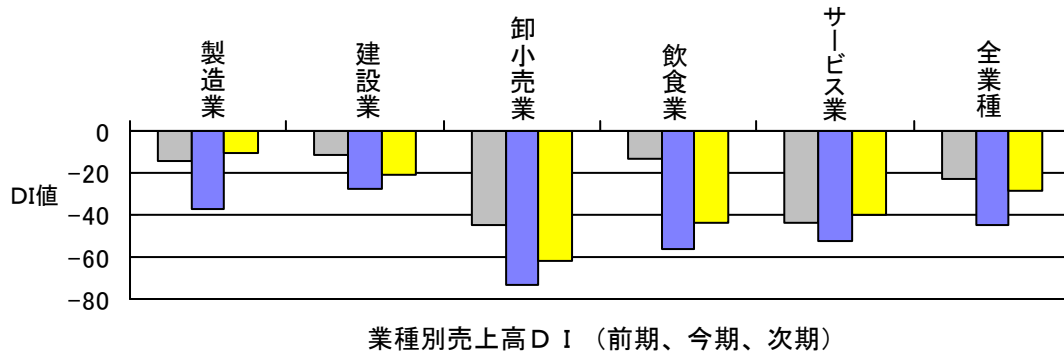
“売上高DI値は▲44.4で、前期比21.7ポイントと大幅に悪化している。すべての業種が悪化している。しかし、次期はすべての業種が改善すると予測している。”

今期(平成23年1~3月期)の「売上高DI」(増加%-減少%)は、全業種では▲44.4である。これは前期▲22.7に比べ21.7ポイントと大幅に悪化している。

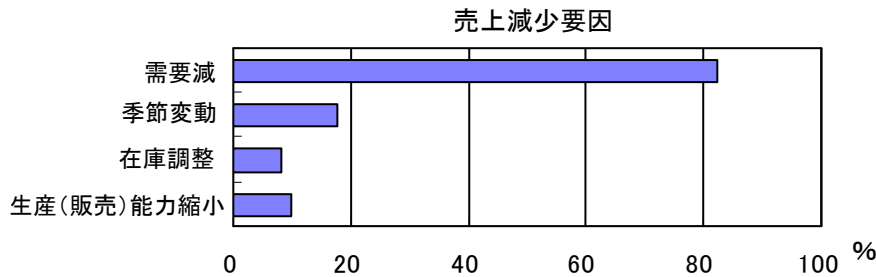
業種別でみると、製造業が▲36.8で22.5ポイント、建設業が▲27.6で16.5ポイント、卸・小売業が▲73.3で28.9ポイント、飲食業が▲56.3で42.7ポイント、サービス業が▲52.6で9.1ポイントそれぞれ大幅に悪化している。



次期の売上の見通しについては、全業種では▲28.4で今期より16.0ポイント改善している。業種別では、すべての業種が改善すると予測している。とくに、製造業の改善が目立つ。

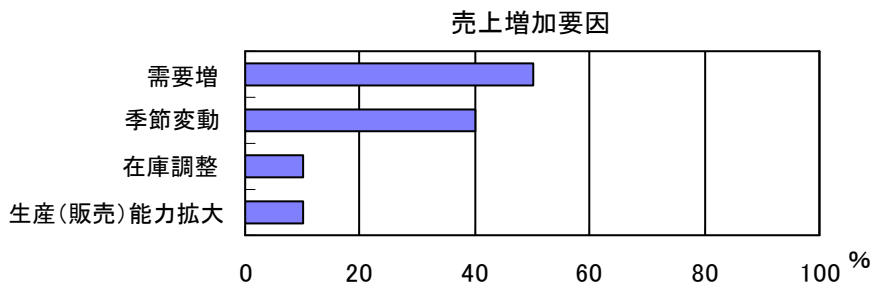


(2) 売上減少要因（複数回答）



今期売上が減少した事業所は62事業所(53.0%)である。前期は49事業所(37.1%)で、売上減の事業者が大幅に増加している。売上減少要因としては、全体の83.3%が需要の落ち込みをあげている。次に季節変動が17.7%、在庫調整が8.1%、生産(販売)能力縮小が9.7%となっている。

(3) 売上増加要因（複数回答）

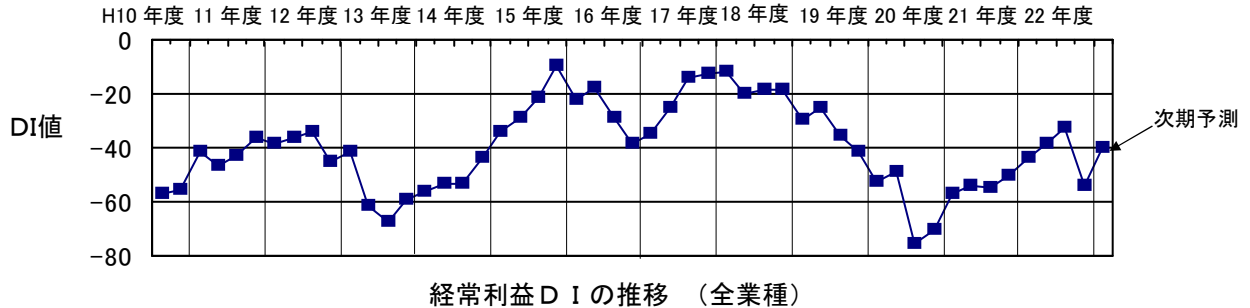


今期売上が増加した事業所は10事業所(8.5%)である。前期は196事業所(14.4%)であった。売上増加要因として需要増が50.0%、季節変動が40.0%、在庫調整が10.0%、生産(販売)能力拡大が10.0%となっている。

#### (4) 経常利益

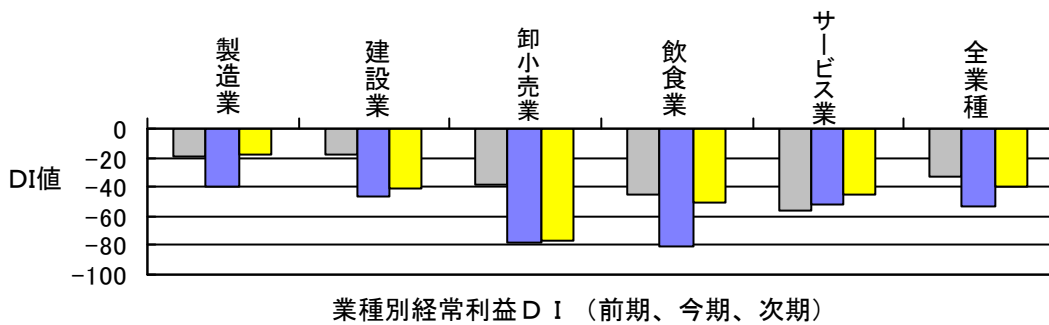
“経常利益DI値は▲53.8で、21.2ポイントと大幅に悪化している。しかし、次期は14.1ポイント改善すると予測している。”

今期(平成23年1~3月期)の「経常利益DI」(増加%-減少%)は、全業種では▲53.8である。前期▲32.6に比べ21.2ポイントと大幅に悪化している。



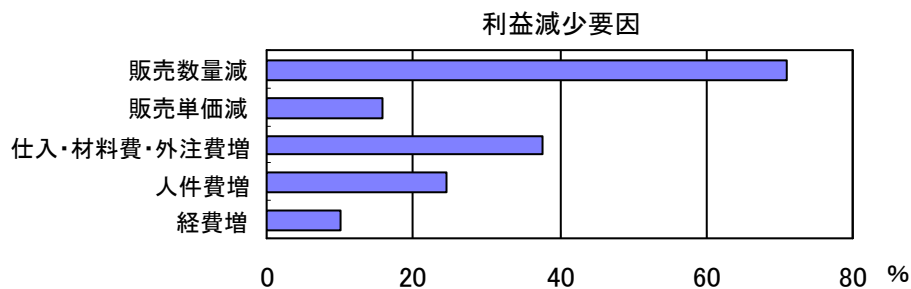
業種別では、製造業が20.5ポイント、建設業が28.5ポイント、卸・小売業が39.7ポイント、飲食業が35.8ポイントと前期に比べ大幅に悪化している。一方、サービス業は3.6ポイント改善している。

次期の予測では、▲39.7で今期より14.1ポイント改善するとしている。



#### (5) 利益減少要因 (複数回答)

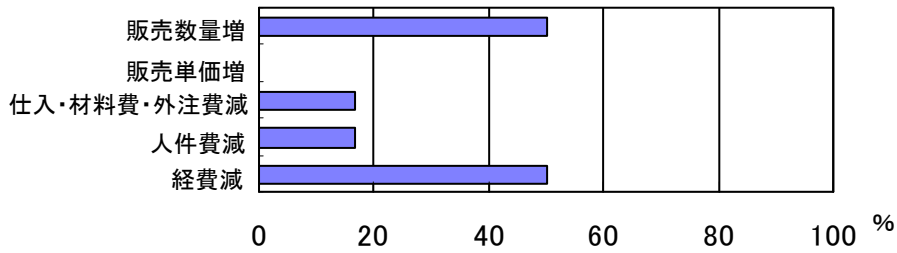
今期利益が減少した事業所は69事業所(59.0%)である。前期は60事業所(44.4%)であった。利益減少要因として販売数量減が71.0%、販売単価減が15.9%、仕入・材料費・外注費増が37.6%、人件費増が24.6%、経費増が10.1%となっている。



#### (6) 利益増加要因 (複数回答)

今期利益が増加した事業所は6事業所(5.1%)である。前期は16事業所(11.9%)であった。利益増加要因として、販売数量増が50.0%、仕入・材料費・外注費減が16.7%、人件費減が16.7%、経費減が50.0%となっている。

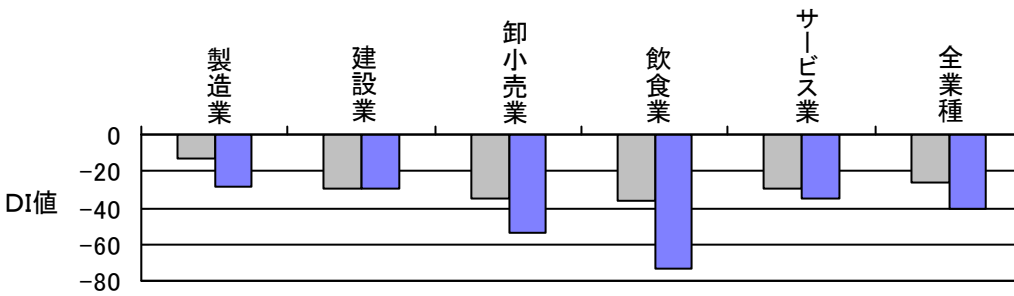
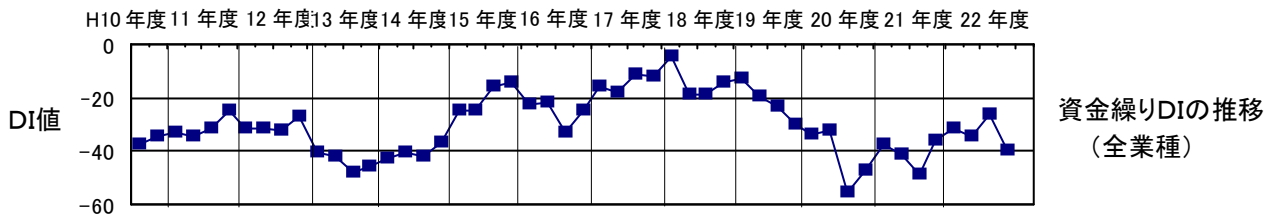
### 利益増加要因



### 3. 資金繰り

“資金繰りDI値は▲40.0で、前期より13.6ポイント悪化している。”

今期(平成23年1~3月)の「資金繰りDI」(良くなった% - 悪くなった%)は、全業種で▲40.0である。前期▲26.4に比べ13.6ポイント悪化した。建設業以外の全ての業種で資金繰りは悪化している。



業種別資金繰りDI (前期、今期)

### 4. 当面の経営上の問題点

#### 当面の経営課題 (複数回答)

	製造業	建設業	卸・小売業	飲食業	サービス業
1位	需要の停滞 60.5%	需要の停滞 66.7%	需要の停滞 60.0%	需要の停滞 62.5%	需要の停滞 59.1%
2位	製品単価の低下 28.9%	請負単価の低下 66.7%	販売価格安 26.7%	店舗の狭隘・老朽化 43.84%	製品ニーズの変化への対応 31.8%
3位	製品ニーズの変化への対応 21.1%	過当競争 46.7%	同業者の進出 26.7%	販売価格安 37.5%	同業者の進出 22.7%
4位	生産設備の不足・老朽化 18.4%	大企業進出による競争の激化 16.7%	大型店進出による競争の激化 20.0%	製品ニーズの変化への対応 31.3%	販売価格安 18.2%